

KIDS SMILE LABO JOURNAL

May



KIDS SMILE LABO



@kidssmlelabo



@kidssmlelabo



@KIDS_SMILE_LABO

This is the page for the classes of children aged 3 to 5.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.

Minamo Ozora Daichi



この日はおにぎりを持って出発。
最後におうちの方の握ってくれた愛情たっぷりのおにぎりとほっこりやさんで購入したバナナチップを食べ大満足の日となりました。

今回、地球に生きる生き物たちと身近なゴミ問題について学ぶ機会となったことで、今後は日々の生活の中でできることを、子どもたちと一緒に考えるきっかけとしていきたいと感じました。

Text by Reiji Akamatsu

4月に訪れた「厚木青少年広場」と、今回は「量り売りカフェほっこりや」に行きました。広々とした河原では、小さく光る宝物・シーグラス探しが始まりました。以前訪れた時にも見つけたことがあり、「また探したい!」という声が上がったのです。

子どもたち一人ひとりで欲しい色が異なり、その中で自然とできた共通認識がとても興味深いものでした。人気なのは『青』ですが、珍しさの順で言うと『黄、赤、緑』『白』や『茶』はよく見つかるようです。大きなシーグラスを見つけたときは大きな喜びがありますが、周囲に自慢する様子はなく、「良いね!」「よかったね!」とお互いを認め合い、尊重し合う姿が印象的でした。

また、年少児さんが「見つからないよ!」とつぶやいた時、「あげるよ」と自分も欲しかったであろうシーグラスを差し出す年長児さんの姿がありました。困っている子の声に耳を傾け、自然と行動に移せる優しさや、「また見つけれられるから大丈夫」という前向きな気持ちを感じられました。

遠浅の河原では、石を並べて川の中に橋を作り始めました。「こっちに良い石いっぱいあったよ!」と声を掛け合いながら、運びやすい石を次々と並べていく子どもたち。少しずつ橋の形になっていくことを喜び、両手でバランスを取りながら渡ることを楽しんでいました。

みつけて、つくって、しった!

〜厚木青少年広場とほっこりやでの1日〜



ETHICAL LIFE STORE ほっこりや

「身体にも地球にもやさしい」食材の量り売り&ギフトショップ。空き瓶やタッパーを持参して、好きなものが必要なだけ。

神奈川県厚木市寿町1-3-13
月〜金 11:00-17:00 (土は19:00まで)
046-259-7708 / 日曜日、不定休あり

その後、向かったのは「量り売りカフェほっこりや」です。「なんで瓶で買うの?」「箱やお皿じゃないの?」と、お店の特別な販売方法についての疑問を店員さんが丁寧に答えてくれました。

「瓶は洗ってまた使えるけれど、スーパーの袋は一度使うと捨てられてしまうよね。捨てられた袋が海に流れていくと、海の生き物たちが苦しんでしまうんだよ」と、海のゴミ問題について絵本を使って説明してくれました。

それを聞いた子どもたちからは「かわいそう!」という言葉がこぼれたり、「川でゴミ拾ったよ!」と、遊び場を綺麗にしている自分たちの取り組みを話す姿が見られました。

Nobana

言葉で伝わらないもどかしさ、葛藤を通して

広いお部屋での生活が始まって、早くも2ヶ月が経ちました。子どもたちの遊びの幅の広がりや、遊びの場が十分に保証されることで、トラブルの数も少しずつ減ってきたように感じています。

とはいえ、まだ言葉でのやりとりは育ちの中にあるのぼなの子どもたち。自分の思いがうまく伝わらなかったり、言葉にできないもどかしさから、つい手が出してしまう場面もあります。

そうした時には、まずその子の気持ちを大人がしっかりと受け止めてあげることが大切にながら、子どもたちとの時間を過ごしています。このことは、先日の親子交流会でもお伝えさせていただきました。

保護者の皆さまからは、「自分の子ばかり手を出していないか心配です」といった声をいただくこともあります。トラブルは、子どもたちが関わり合いを学ぶ中で誰にでも起こる大切な経験です。

ちょっとしたきつかけで相手が怒ってしまったり、反対に自分がイライラしてしまったり…。

そんな時に、大人に気持ちを受け止めてもらいながら、「こうしてみたらよかったかもしれないね」と声をかけてもらうことで、「じゃあ、今度はそうしてみようかな」と、自分なりに関わるうとする姿が少しずつ見られるようになってきました。

子どもたちにとって、こうした経験のひとつひとつが、心や言葉を育てる大切な土台になっているのだと感じています。

これから子どもたちはますます多くの言葉を吸収し、驚くような成長を見せてくれることでしょう。

そんなのぼなさんの姿を、保護者の皆さまと共に、これからも温かく見守っていきけたら嬉しく思います。

Text by Yumiko Sakuma



Soyokaze

ひんやりいい気持ち！

気温が上がリ、冷たい水が気持ちよく感じられる季節になりました。広場では水遊びを思いきり楽しんでいます。水遊びが大好きなそよかぜさんは、水をためたベビバスやドライバッグが出てくると、一目散に駆け寄ってきます。スプーンで水をそーとすくって容器に移し替えて黙々と遊んだり、頭から水をかぶって「ばあー！」とダイナミックに遊んだり、パシャパシャとはねる水しぶきを楽しんだり、その遊び方はさまざまで、見ていてとても楽しいです。

また、保育者が水遊びをしていると、そつと近づいて水をかけ、「わー！冷たい！」という反応にニヤリ。保育者の驚く様子を見てケラケラと笑い、広場はにぎやかな笑い声に包まれています。その他にも、さまざまな遊びを楽しんでいます。ローズガーデンで拾った

バラの花びらを水にして遊んだときには、水をおでこや腕に当てる冷たさを感じたり、表面をなでてツルツルとした感触を味わったりしていました。

手作りウォーターベッドを広場に置いたときには、初めてのウォーターベッドにドキドキしている様子も見られましたが、保育者が「冷たくて気持ちいいよ」と声をかけると、子どもたちは様子をうかがいながら端をぶにぶにと触ってみたり、やがては水の字になって寝転んだり、水の中にもぐるように顔や体をくっつけたりして、不思議な感触や冷たさを思い思いに楽しんでいます。

このように、水遊びにはさまざまな楽しみ方があります。これから日に日に暑くなる季節、涼しさを感じながら楽しい時間を過ごせるよう、工夫していきたいと思っています。

Text by Riko Fujie



Komorebi

ぐんぐん成長中！

入園してから、あっという間に2ヶ月が経ちました。この短い期間の中でも、こもれびの子どもたちは目覚ましい成長を見せてくれています。

日々の生活の中で少しずつできることが増え、表情もますます豊かになってきました。

木陰広場に出かけると、青々とした草の上を裸足でハイハイやずり這いをしながら、自然の中でのびのびと身体を動かして、気持ちよさそうに過ごしています。

この2ヶ月の間にハイハイやずり這いのスピードがぐんと速くなったり、停めてあるバギーにつかまって立ち上がる姿も見られるようになり、成長していく姿に私たちも驚かされています。

草花をお皿に集めてじっくり触ってちぎってみたり、そよかぜさんと一緒に水遊びをしたりと、さまざまな遊びを通して五感をたっぷり刺激しています。

塩麹・味噌・醤油の3種類の味付けで毎日提供している煮野菜も、「飽きてしま

うかな？」という大人の心配をよそに、日を追うことに食べる量が増えていて驚かされています。

大好きだった豆腐がある日突然投げたり、あまり飲まなかった汁物を急に何杯もおかわりしたりと、子どもたちの好みの変化もとても面白く感じています。

まだ言葉はなくても、泣いたり怒ったりしながら食べたいものを伝える姿に、心の成長も感じています。

保育者が「こちそうさまでした」と手を合わせると、その動きを真似して手をぱちんと合わせてくれる姿も見られるようになりました。

反対に、まだ終わりがたくなときにはお皿をバンバン叩いて「まだ食べたいです！」と全力でアピール。子どもたちのやりとりが楽しい毎日です。

これからも一人ひとりの小さな変化や成長に丁寧に気づき、その喜びを分かち合えるような、温かな時間を積み重ねていきたいと思っています。

Text by Mami Matsuda



子どもたちの「食べる力」を育む

～ KIDS SMILE LABO の「食具」に込めた思い ～

KIDS SMILE LABO が大切にしていることのひとつ。
それが「食」です。
子どもたちの健やかな成長に欠かせない毎日の食事。その時間が、心と体を育む大切な体験になるよう、私たちは日々、丁寧に向き合っています。
「食べる力」を育むためには、食事そのものはもちろん、食具や食器などの道具選びも大切な要素です。



「本当に大切なこと」 ってなんだろう？

多くの保育の現場では、メラミン樹脂やステンレスといった「割れにくい」「壊れにくい」素材の食器が使われています。安全性や耐久性、扱いやすさといった観点から、現場で求められる条件に合致しているためです。
また、子どもたちが楽しく食事できるようにと、カラフルな色合いやキャラクターのイラストが描かれたデザインも多く見られます。
こうした工夫にも、もちろん意味があります。ですが、私たちはふと立ち止まって、こんなことを考えます。

「子どもたちにとって、本当に大切なことは何だろう？」

利便性や見た目の楽しさだけではなく、「子どもがどのように食事と関わるか」「どんな体験を通して食べる力を育んでいくのか」という視点も、同じように大切にしたいのです。
だからこそ私たちは、子どもたちの発達や感性に寄り添いながら、改めて考えるようになりました。

たとえば、陶器や磁器・ガラスの食器。これらは手に持ったときの重みや、口に触れたときの感触、食材の彩りをより引き立てるなど、五感を通して得られる体験は、幼い頃だからこそ日常の中に取り入れていきたいもの

です。盛り付けられた食事の彩りや、器と料理が作り出す美しさに気づく。それもまた、子どもたちの感性を豊かに育てていく力になると信じています。
また、私たちは「お皿は割れてもいい」と考えています。もちろん、故意に割っていいという意味ではありません。でも、万が一割れてしまった時、それは「どう扱えばよかったか」と子どもが自ら学ぶ、貴重な体験の瞬間でもあります。

食具は「自分で食べる力」 を育てるパートナー

スプーンやフォーク、お箸、器。これらの道具は単なる「食べるための道具」ではありません。
「自分で口に運べた」「こぼさずすくえた」。そんな小さな成功体験の積み重ねが、「できた！」という自信となり、子どもたちの成長を後押しします。
私たちは、道具そのものの機能性だけでなく、子どもの発達段階に合った形や素材、使いやすさ、持ちやすさを大切にしたいと考えています。

子どもたちは、発達に応じて食べ方も少しずつ変わっていきます。次のページでは、乳児期後期から幼児期にかけての成長段階に合った食具・食器の選び方をご紹介します。

道具と、人の力。 そのどちらも大切に

毎日の食事は、子どもたちの心と体の成長を支える大切な時間です。
「一人で食べられた！」という小さな成功体験の積み重ねが、子どもたちに自信を育み、成長へとつながっていきます。

最近では、子ども用の食器やスプーンなど、便利で機能的な道具がたくさん開発されています。技術の進歩によって、より使いやすく、安全性に優れた商品も増えてきました。
ですが、どれだけ良い道具があっても、それを使いこなすのは人です。
指を動かす、手を動かす、口を開く、目で見て、身体を使って食べる。
こうした基本的な「人の動き」が育ってこそ、道具の本当の力が発揮されます。

道具に頼るだけでなく、子どもたち自身の「食べる力」を育てること。
それが、私たち KIDS SMILE LABO の考える「食」の在り方です。

毎日の「食べる時間」が、もっと心地よく、もっと楽しいものになりますように。



食器選びのポイントは 「手に合っているか」「使いやすいか」

スプーン&フォーク

- ・持ち手 手にフィットし、太さ・素材に配慮されたものを。
 - ・スプーン 子どもの口より少し小さめ、浅すぎず深すぎない形状がベスト。
 - ・フォーク 先端が尖りすぎず、安全性の高いもの。刺してもすぐえる設計が理想です。
- お皿&お椀
- ・スプーンで自然にすくえるかたち
 - ・小さな手でもしっかり持てるもの

KIDS SMILE LABO で
使用している食具



〈EDISON スプーン フォーク〉



〈ユニバーサル多用深皿〉



〈みよし漆器本舗〉



step1 乳児期（後期～完了期） 手づかみ食べの大切さ



この時期は、食事のリズムが整い始め、「自分で食べたい！」という気持ちが芽生える頃。手づかみ食べは、まさに「食べる力」の第一歩です。
遊び食べのように見える行動も、実は大切な学びのひとつ。食べ物の形や質感、温度を手で感じながら、子どもはたくさんのことを吸収しています。



KIDS SMILE LABO には馴染みの『煮野菜離乳食』は野菜を大きくカットし、掴みやすくなっています。

step2 幼児期（～3歳ごろ） 道具を使った「自分で食べたい」期へ



家族と同じ食卓での食事が増えてくるこの時期。大人の真似をしながら、スプーンやフォークを使って「自分で」食べる意欲がどんどん高まります。
汁椀などは、底に安定感のある“糸底（ハマ）”があるタイプがおすすめ。KIDS SMILE LABO でも使用している、縁に立ち上がりがある食器は、すくいやすくこぼれにくいので、子どもの「できた！」をサポートしてくれます。

スプーンの練習は“遊び”の中から

上手持ち（にぎる持ち方）から始まり、やがて下手持ち（鉛筆のように持つ）へと移行していきます。
自然と手指の動きを身につけられるようになる遊びの例として、お絵かきや粘土遊びなどが挙げられます。
お子さんの手に合ったスプーンを選ぶこともポイントです。



step3 お箸へのステップ 焦らず、ゆっくりと

スプーンやフォークの扱いに慣れてから、お箸へと進みます。
無理に早めず、あくまでも“楽しみながら”が大切です。
お箸の長さは「手の長さ+3cm」が目安。すべり止め付きで、持ちやすい形状のものを選びましょう。
箸を使ってスポンジをつまむ遊びなどを取り入れるのもおすすめです。



☞To. みなも・おおぞら・だいご

味噌づくりから4ヶ月が経ちました 持ち帰った味噌は今、どんな様子ですか？

1 色の変化

徐々に茶色～赤茶色に変わってきます。
熟成が進むとやや濃い色になります。



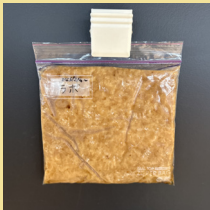
ラボの味噌は良い色に熟成してきました。少しカビも見られるので、子どもたちと一緒に取る予定です。

2 香り

熟成が進むと、アルコールやナッツ、カラメルのような香ばしさが出てきます。
未熟な状態だと、大豆っぽい生臭さや、発酵臭が不十分な印象を受けます。

3 表面の状態

カビが生えている場合は、その部分を大きく削って廃棄し、異臭がある場合は全体を処分してください。



幼児さんにお配りしたものと同じジップロックの味噌。少しずつ熟成が進んでいる様子です。そろそろ暑くなって来たので、冷蔵庫に移動しようと思います。

暑い時期に入ってきたので、
15℃くらいの冷暗所か
冷蔵庫での保管がおすすめです！

Text by 保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 普
子どもたちから「もりもりの愛称で親しまれている」KIDS SMILE LABOの園長。5歳と7歳、二児の父でもあり、保育士育てに日々真摯に向き合っている。趣味は写真撮影、愛用のカメラはNikon。もりもりの生み出す、優しくて愛で溢れる世界はnoteにて随時更新！子育てや保育への想いも語っています。



》no+e